



RUNNER



今日のRUNNER

タヌキのヒゼンダニ……………2

活動の現場……………4

鳥インフルエンザ……………6

ボランティア雑感

もし大地震がおこったら ……9

らんなー新聞

ミツユビカモメ、ヒナコウモリ……………10

野生生物保護 旅日記

No.2 パンダ……………12

野生生物保護 旅日記

No.3 ニホンカモシカ……………14

インフォメーション……………16

○図鑑○ NO.13

・センコウヒゼンダニ *Sarcoptes scabiei*

別名：ヒゼンダニ、疥癬虫

ヒゼンダニ科

体は丸く、白色を呈する。脚は短く、雌成ダニは体長約 0.4mm で、第 1・第 2 脚先端に吸盤、第 3・第 4 脚先端に剛毛をもつ。雄成ダニは約 0.3mm、第 1・第 2・第 4 脚に吸盤、第 3 脚に剛毛をもつ。種としての明瞭な形態的区別はつかないものの、宿主によりある程度の大きさの違いと宿主特異性しゆくしゆとくいせいが存在することから、宿主別に変種名が設定されることがある。

宿主に寄生すると、雌成ダニは皮膚の角質層に入り込み、水平にトンネル（疥癬トンネル）を掘り進みつつ排便、産卵する。卵から孵化した幼ダニの多くはトンネル外に離脱し、毛包内に侵入し発育するとされる。交尾は皮膚上で行われ、雌成ダニは皮膚内に入り込む。感染した宿主に接触することで感染する。

※参考文献

・今井壯一ら(2009)：図説 獣医衛生動物学，講談社，東京。

・野上貞雄・今井壯一(2006)：野生動物の疥癬，ViVeD(Visual Veterinary Dermatology)，2(1)：23-28。

疥癬の治療

治療はイベルメクチンという駆虫薬を注射し、ヒゼンダニを殺します。また、皮膚が割れて細菌感染していることも多いので、抗生物質をあたえることもあります。脱水や栄養不良がある場合は点滴を行います。そして、毛が抜けて体温調節ができなくなっているため保温も大切です。しかし、救護された段階で弱っていると、治療の甲斐なく死んでしまう場合が多いです。

疥癬タヌキの扱い方

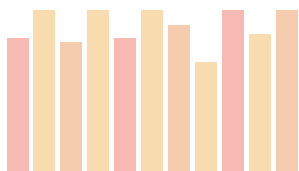
タヌキのヒゼンダニは、人では重症化しませんが、疥癬タヌキを扱う際には注意が必要です。

- ①疥癬タヌキの世話をする時は、必ず手袋や白衣をつけること。
- ②疥癬タヌキを世話した後は手袋や白衣を取り替え、他の動物に感染を広げないこと。
- ③ヒゼンダニは消毒薬では死なない為、使用したタオルや食器類は食べ残しごと熱湯消毒すること。以上 3 つのことを最低限守ってください。

分析

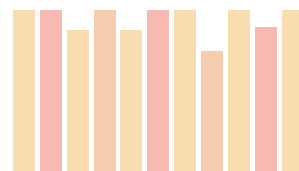
平成 11～23 年度のタヌキの救護原因の第一位は疥癬で、年間のタヌキ救護頭数の約 56.1%を占めています。また月別では、2 月に救護されるタヌキの約 81.8%が疥癬で、冬の寒い時期にもっとも多いことがわかります。そして特徴的なのが死亡率の高さです。疥癬が原因で救護されたタヌキの約 71.5%が救護後死亡しており、無事に放野されることが少ないのが現実です。

タヌキの疥癬がどのように広まっているかについては、エサあげによるタヌキの集合等様々なことが言われていますが、まだ解明されていません。もし人が原因を作っているのなら、解明されることで疥癬にかかるタヌキの数を減らすことができるかもしれません。また、保全センターの職員さんは「最近のタヌキのヒゼンダニは人に感染しやすい」と感じています。本当にタヌキのヒゼンダニが人に感染しやすくなっているのか、もし本当なら原因は何か、様々な謎があります。まだ研究が十分ではないヒゼンダニ。これから更なるヒゼンダニの研究が望まれます。



活動の現場

このコーナーでは普及啓発活動やイベントなどに参加したボランティアがその体験をもとにレポートしています。



傷病舎大掃除と豚汁&ムササビの巣箱設置の報告

昨年12月18日に毎年恒例の大掃除、参加人数も30人以上で、傷病舎とその周辺に溜まっていた落ち葉や老朽化していたA・B・C小屋の撤去などがたちまちの内にすっきりとしました。

大掃除が終わりお昼に豚汁を皆でいただいた後、午後は先日の東京農業大学の安藤先生の講座の続編として先生と農大の学生さんたちと一緒に、ムササビの巣箱掛けを保全センターのフィールドで行いました。梯子を登る人、支える人また道具を渡す人それぞれ皆が協力して合計4個の巣箱を掛けました。農大のご協力でセンサーカメラも全部の巣箱につけることが出来ました。ムササビの他にもテン等が巣箱をのぞく姿が見られるかもしれません。今後ムササビが入るのを期待して調査を続けたいと思います。



樹洞性鳥類の講座 報告

樹洞性生物の第2弾として今回は鳥類編の講座を1月14日に行いました。講師に日本鳥類保護連盟の藤井幹先生をお招きして、樹洞を使う鳥たちの話をさせていただきました。午前は部屋の中での座学講座、午後は野外で樹洞を探しながらの講座でした。参加者は39人でどの様な鳥たちが樹洞を利用しているのか、巣箱は必要か？また巣箱を取り付けた後にはむやみに覗くとその後はほとんどヘビなどの外敵に捕食されてしまうという話や、巣箱の中の状態で無事巣立ったか途中で何者かに捕食されてしまったかが分るなど、調査研究をしている方ならではの興味深い話も聞くことができました。

昨年10月に行った「樹洞性哺乳類の講座」と今回の「樹洞性鳥類の講座」で樹洞性生物の講座のシリーズは終了となります。それぞれ講師の先生にお越しいただき、専門的かつ大変興味深いお話を伺うことができましたし野外施設で行ったフィールドワークでは、実践的な調査方法や野生生物の生息地に近づく際のマナーなど、室内では知りえない多くのことを体感することが出来ました。

救護の会では、このような有意義な講座をこれからも開講し、皆さんに学んでいただける場を広く提供していきたいと考えています。



見逃してしまいそうな場所も要チェック



スコープを使って樹洞内部を観察します



落ちてしまった巣箱を観察しました

相川小学校「放課後子ども教室」報告

1月20日に、相川小学校で行われた「放課後子ども教室」に招かれ、救護についての話をしてきました。「救護の会」として2回目の教室で、昨年10月の1回目引き続き野生動物について子供たちに知らせてもらうためのプログラムを行いました。当日は雪も降るなど天候に恵まれず、1回目より少ない23名ほどの参加となりましたが、少ない分皆熱心に聞いてくれたのではないかと思います。

まず、1回目と同様コミミズクのロン君が皆に挨拶。そして、コゲラとカワラヒワの羽を使ってしおりを作りました。それぞれが絵や文字を描き、オリジナリティー溢れるしおりが完成しました。その後は動物パズル。タヌキ、アライグマ、アナグマ、ハクビシンの絵が頭・胴体・尾に分かれたパズルに挑戦しました。特にアナグマとハクビシンが馴染みが薄いようで、皆結構試行錯誤しながら取り組んでいました。ひとしきり遊んだ後はちょっとお勉強。保全センターに救護されてくる動物たちの救護原因を説明し、皆に出来ることを考えてもらった後、具体例として保全センターのゴイサギとヒヨドリに登場してもらいました。最後は「ヒナを

拾わないでポスター」の説明を行い、ロン君が挨拶をして終了。

2回を通して参加してくれた子供も半数ほどおり、普段はあまり触れることのない野生動物と人間との関わりについて少しでも理解してもらえたらと思いました。今後も継続してこのような活動を行っていただければと思います。



平成23年度傷病鳥獣救護講習会

島根県獣医師会からの講演依頼を受け、2月14日島根県出雲市において自然環境保全センターの加藤先生とともに野生動物救護の会理事長 渡辺が野生動物たちとどう向き合っているかを熱く語って来ました。

始めに「神奈川県の野生動物救護の現状」に関して加藤先生が講演され、続いて渡辺が「一頭一羽でも、多くの野生復帰を目指して」と題して当会の活動紹介や傷つく野生動物の現状、野生復帰のためのリハビリの様子などを写真やビデオを用いて講演しました。最後に島根県農林水産部森林整備課鳥獣対策室 古志野成則氏が「島根県の野生鳥獣救護の現状」について講演されました。聴講して下さったのは島根県立出雲農林高等学校2年生38名と県の職員、鳥獣保護員など計74名でみなさん熱心に聞き入っていた様子でした。閉会時間ぎりぎりまで多岐にわたる沢山の質問を受け、野生動物への関心の高さが伺えた意義のある講習会になったと思います。後日、参加された出雲農林高等学校 動物科学科教諭の長島先生から感想が届きました。

出雲農林高校動物科学科では「命」を学科のメインテーマとして学習しています。

毎日の動物飼育を通じて命と向き合い、命について考える。

生命の誕生を見ることもあれば、最期を看取るときもある。

また、私たちが生きて行くためにまだ生きられる命を終えさせる時もあります。

ですから産業としての動物の利用方法、飼育方法、理念についてと社会動物としての動物活用、飼育方法、理念についてその両方について幅広く学習しています。

今回、貴重なお話を聞かせていただき大変ありがとうございました。

講演の中で、生徒たちの印象にもっとも強く残ったのが猛禽類の野生復帰動画でした。

渡辺さんの映像を見て「私たちにも出来るのではないか」と口々に言っていました。

日頃の学習では伝えきれないことを聞かせていただき大変嬉しく思います。



また14日午前には、島根県の野生動物救護に携わっている「NPO法人 しまね野生鳥獣救護ボランティア」の竹下理事長にもお会いし、救護施設の見学島根県の救護状況など有意義なお話を伺う事ができました。

この講演会を計画され忙しい中準備等をされ、私たちを呼んで下さった島根県獣医師会の方々及び、吉川常務理事にこの場をお借りして感謝申し上げます。これを機会に、これからも島根県と神奈川県が野生動物救護において連携して行けたらと思います。



加藤千晴獣医師の講義



渡辺優子理事長の講義

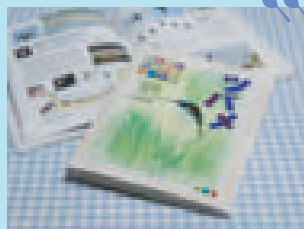


しまね野生鳥獣救護施設を見学



出雲大社にて 中央は吉川常務理事

素敵な 児童書のご紹介です



野生動物救護の会より、素敵な児童書のご紹介です。プロカメラマンで、当会の会員さんでもある佐藤信敏氏が「田んぼの生きものたち ツバメ」を発売されました。レンズを通して捉えた躍動感あるツバメの貴重な映像は、NHKの番組「ダーウィンが来た」でも紹介されご覧になった方も多くいらっしゃると思います。ツバメの写真を撮りつづけている佐藤氏ならではの迫力ある写真が満載された内容で、子供だけでなく、野生動物を愛する全ての方に手に取って読んで頂きたい児童書です。現時点でツバメに関して日本で一番詳しい本であると、著者であるバードリサーチの神山氏も保証されているとか。またツバメ（ヒナ）のレスキューなど野生動物救護ボランティアとしては見逃せない内容なのも嬉しいです。

詳しくはコチラ→http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_54009268/

そして、この度当会では、佐藤氏のご厚意により限定15冊のみ定価¥2625のところ¥2100で購入出来ることになりました。ボランティア室にも見本が置いてありますので、購入ご希望の方は是非この機会に事務局までお申し込み下さい。(先着順) 保全センターにて代金引き換えでお渡しいたします。

なお配送ご希望の方は送料・手数料込で¥2400、入金確認後の発送となります。

鳥インフルエンザ

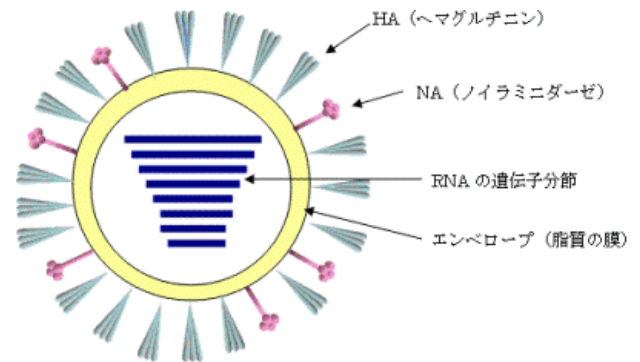
皆さんは鳥インフルエンザというどんなイメージを持っていますか？日本でも度々発生があり、昨年の流行時にはニュースなどでも大きく取り上げられているので、この病気を知らない人はほとんどいないと思います。では、どんな病気で何が問題なのか。よくわからないけど漠然と怖い病気というイメージを持っている人もいるのではないかと思います。今回は、鳥インフルエンザについてまとめてみました。

どんな病気か？

インフルエンザウイルスによって罹る鳥の感染症です。感染すると咳、くしゃみなどの呼吸器症状、下痢などの消化器症状、産卵数の低下、顔面の浮腫、沈鬱状態や神経症状などが見られます。ニワトリに感染したときの症状から弱毒型（低病原性鳥インフルエンザ）、強毒型（高病原性鳥インフルエンザ）、それ以外の鳥インフルエンザに分けられ、弱毒型では症状も弱く死亡する事はまれですが、強毒型へ変異することがあります。強毒型では感染したニワトリの死亡率はほぼ 100%です。ただ、鳥の種によって重症度は大きく異なり、ニワトリ・ウズラ・七面鳥等、家禽類に感染した場合は症状が強く、死亡率も高いのですが、多くの野鳥に感染した場合は強毒型であっても症状は軽く死亡率は高くありません。特にカモなどの水禽類ではほぼ無症状で経過する事が多いです。それ以外の鳥インフルエンザでは重症化する事はあまりありません。

原因は？

オルソミクソウイルス属のインフルエンザウイルス(Orthomyxoviridae Influenzavirus)の感染によって起こります。インフルエンザウイルスはA・B・C型の3種類があり、A型インフルエンザウイルスはウイルス表面のヘマグルチニン(HA 抗原、ウイルスが宿主細胞内へ進入する時に必要、H1~H16に分類)とノイラミニダーゼ(NA 抗原、宿主細胞内で増殖したウイルスが細胞外へ遊離する時に必要、N1~N9に分類)という部分の構造変異が大きく、それらの組み合わせによってH1N1型~H16N9型の144通りにタイプ分けされます。人のインフルエンザはA・B・C型で、鳥のインフルエンザはA型のウイルスによるものです。また、他の家畜ではブタ・ウマ・ミンク、野生動物ではアザラシ・クジラでA型のウイルスによる感染が知られています。人も鳥もA型のウイルスに感染しますが、人と鳥のインフルエンザウイルスはH・Nで表される型が異なる別物です。鳥インフルエンザの内、日本ではH5とH7型に分類されるウイルスのうち毒性が強いものが高病原性鳥インフルエンザ、弱いものが弱毒性鳥インフルエンザとされ、家禽類で問題となる病気です。H5とH7型以外のウイルスは、感染しても大きな問題になることは稀です。昨年日本で発生し、問題となった鳥インフルエンザはH5N1型に分類される高病原性鳥インフルエンザです。



インフルエンザウイルスの構造

新潟県ホームページより

(<http://www.pref.niigata.lg.jp/hokanken/1233086535114.html>)

感染経路は？

野生のカモなどの糞便からウイルスが排泄され、それを経口的、経気道的に摂取することで感染が伝播します。摂取されたウイルスは腸内の細胞で増殖し、糞便と共に再び排泄され、感染を拡大させます。もとは野生の水禽類に広く分布しているウイルスで、それらを本来の感染の場とするものと考えられており、ウイルスを保有した野鳥やその糞便との接触により家禽類へ感染が伝播するといわれています。特にアジア周辺諸国では高病原性鳥インフルエンザの発生が多く、大陸からの渡り鳥が日本国内にウイルスを持ち込む可能性が高いと思われます。

この病気の問題は？

H5とH7型以外の鳥インフルエンザウイルスによる感染であれば問題になる事はほとんどありません。低病原性鳥インフルエンザは高病原性に変異した際に家禽類で問題が大きくなります。高病原性鳥インフルエンザは、野生動物にとってはあまり大きな問題にはならない病気かもしれませんが、家禽類に感染すると大きな問題となります。家禽類では病原性、伝播力共に強いいため、感染の広がりも早く、早急な対策が必要となります。治療法が無く、回復後もウイルスの排出がしばらく続くため、感染が確認されれば直ちに感染農場の家禽は全て殺処分となり、感染が疑われる場合でも殺処分となることもあります。また、発生農場から半径数km~数十km以内にある農家には家禽や鶏卵の出荷停止や移動制限が求められます。そして、高病原性鳥インフルエンザの発生が確認されると、国際獣疫事務局(OIE、動物衛生や人獣共通感染症に関する国際組織)の定

禽類の輸出に制限がかけられます。

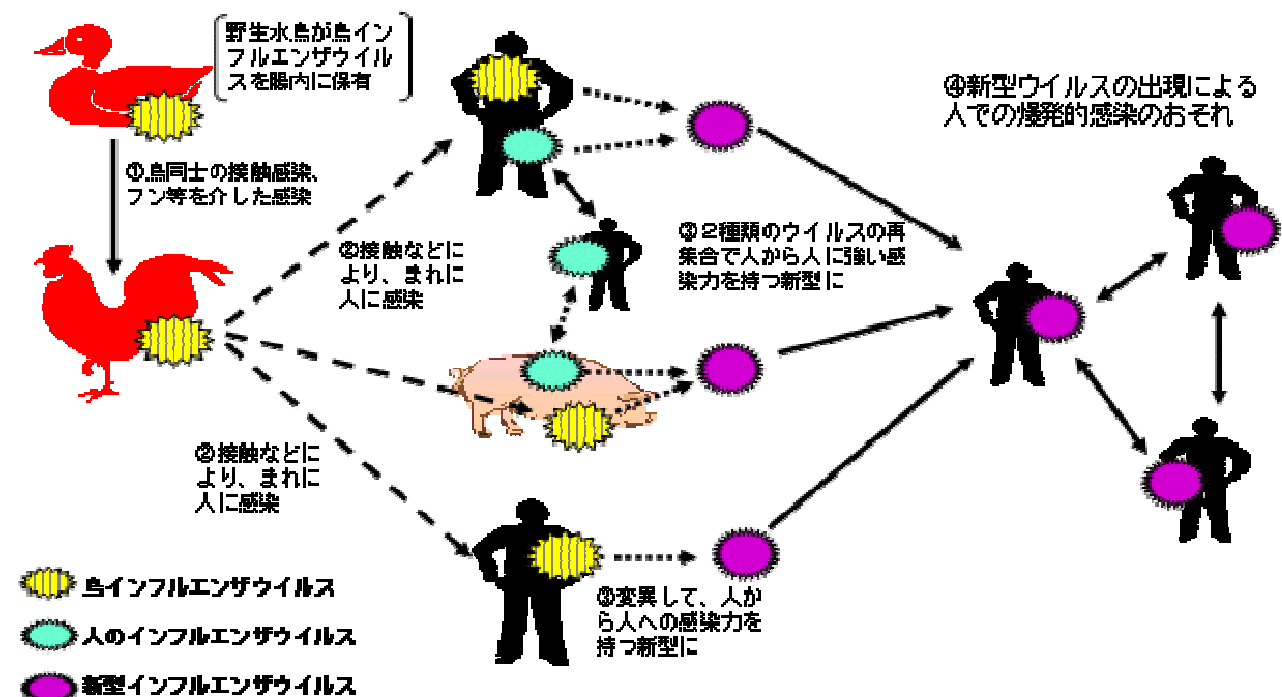
人への感染は？

全世界での高病原性鳥インフルエンザ(H5N1)の人での発生状況は、WHOの公式発表によると2003年11月以降2012年3月12日までで、発症者数596人、死亡者数350人、日本では人の感染は発生していないとされています。全世界での発生数ですので、かなり少ない数であると言えると思います。また、感染者の細胞を調べると、H5型の鳥インフルエンザウイルスに感染しやすい特徴を持っていたとされています。これは、通常、人には無い特徴なので、一般的には鳥インフルエンザの人への感染が起こる可能性は極めて低く、感染が起こるのは非常に特殊なケースと言えるでしょう。感染経路に関しては、鳥から人への感染は確認されていますが、人から人への感染は現在まででは確認されていません。また、感染鶏の肉や卵を食べる事で人に感染するのではないかと不安に思う人もいますが、鶏肉や鶏卵を食べた

事による人への感染は全世界で1例もありません。この様なことから、鳥インフルエンザが発生したからといって過剰に不安に思う必要は無く、現状では鳥インフルエンザの発生が人の健康へ大きな被害を与える可能性は非常に低いと言えるでしょう。

ただ、現在もっとも懸念されているのは、鳥インフルエンザウイルスから、人への感染力を獲得した新型インフルエンザウイルスが誕生する可能性があるという事です。人と鳥のインフルエンザに同時に感染するなどしてウイルスの遺伝子に変異が生じ、新型のウイルスが生まれるかもしれないと考えられています。特にブタは人と鳥両方のインフルエンザウイルスに感染するため、新型ウイルス誕生の場として懸念されています。もしこの様な事が起こると世界中で流行が広がり、大きな被害が起こるかもしれません。しかし、今後必ず起こると言う訳ではなく、過剰に心配する必要は無いかもしれません。

鳥インフルエンザウイルスと新型インフルエンザウイルスの関係



鳥取県ホームページより(<http://www.pref.tottori.lg.jp/39389.htm>)

対策は？

現在、動物に関しては農林水産省による検疫が行われており、輸入鳥によるウイルスの侵入を水際で防ぐ対策が行われています。しかし、渡り鳥により持ち込まれる可能性があるため、完全に進入を防ぐ事は難しいでしょう。そのため、環境省では野鳥における発生状況を監視し、早期発見に務めています。また、海外での発生状況を把握し、状況によって警戒レベルを高める事も必要でしょう。しかし、それでも全ての状況を把握する事はできないでしょうから、野鳥と家禽の接触を避ける事が重要だと考えられます。また、発生が確認された場合には感染拡大

を防ぐための移動・出荷制限や感染鳥の殺処分などの素早い対応が必要です。日本ではこれらの対策が効果的に行われているようで、過去の発生時には諸外国に比べて早期に流行が収束しています。

人の健康被害に関しては厚生労働省と国立感染症研究所が中心になって対策を行っています。現在まで、国内では人の感染はありませんが、注意は必要でしょう。死亡した野鳥を発見したら直ちに鳥インフルエンザを疑う必要はありませんが、一部地域で大量の野鳥が死亡している場合などは注意が必要かもしれません。ただ、基本的には人へ感染する可能性は非常に低いため、過剰に恐れる必要は無いと思

います。それでも心配な人は野鳥やその糞便には無闇に接触しない方が賢明でしょう。万が一接触した場合はうがいや手洗いをしっかりする事でウイルスを体内に取り込む可能性を下げる事ができます。

最後に

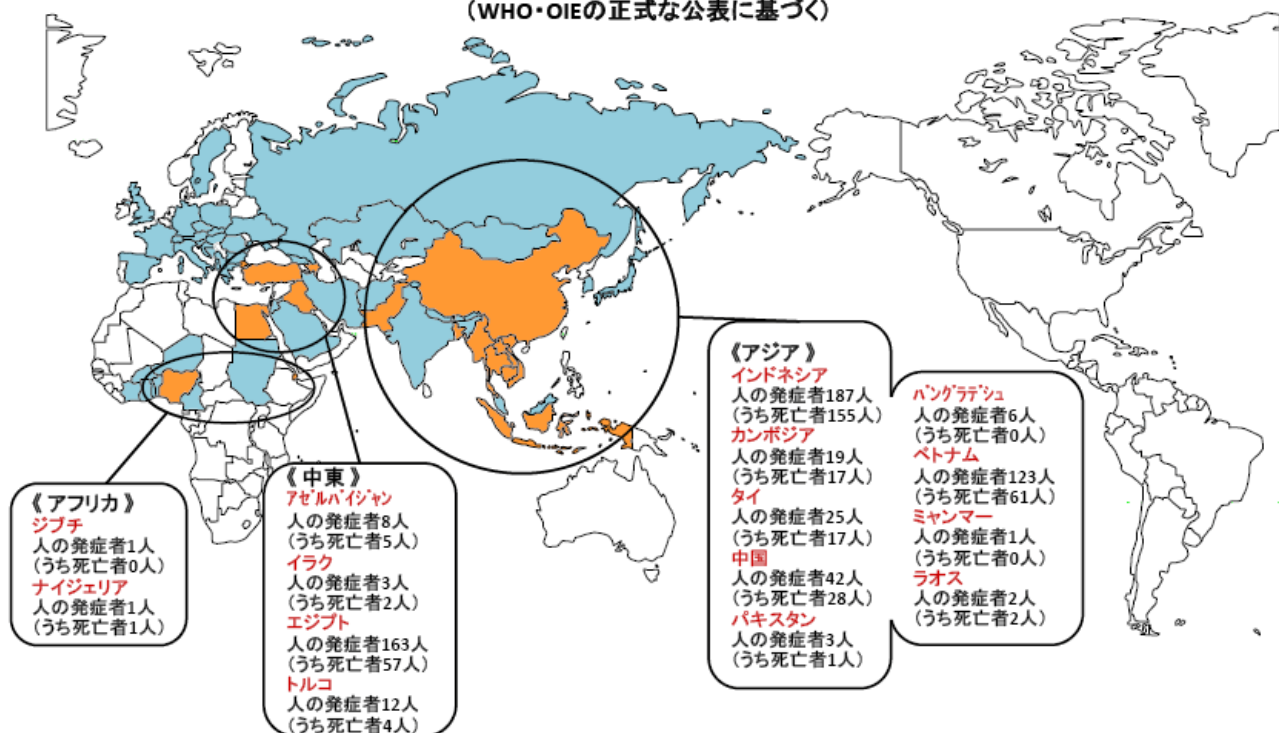
以前、保全センターに勤めていた時に鳥インフルエンザに関する問い合わせを受ける事がありました。保護された野鳥の簡易検査をした事もありますが、陰性の結果しか出たことはありません。しかし、発生地域に対する風評被害があったり、過度に野鳥を

警戒する人もいるようです。その様な事から、鳥インフルエンザを過剰に恐れている人が多いのではないかと、との印象を持っています。

今でもアジア諸国を中心に世界で発生が報告されており、渡り鳥からの伝播を完全に防ぐことは難しいため、今後も国内で高病原性鳥インフルエンザが発生する事は十分にありえます。その時は、みなさんがこの病気を正しく理解し、適切に警戒する事が一番の対策になるのではないかと思います。

鳥インフルエンザ(H5N1)発生国及び人での発症事例(2003年11月以降)

(WHO・OIEの正式な公表に基づく)



注) 上記の他、人への感染事例として、
 1997年香港(H5N1 18名感染、6人死亡)
 1999年香港(H9N2 2名感染、死亡なし)
 2003年香港(H5N1 2名感染、1人死亡)
 2003年オランダ(H7N7 89名感染、1人死亡)
 2004年カナダ(H7N3 2名感染、死亡なし)
 2007年英国(H7N2 4名感染、死亡なし)等がある。

■ : 家さん等でのH5N1が認められた国
 ■ : 人でのH5N1発症が認められた国

参考: WHOの確認している発症者数は計596人(うち死亡350人)

2012年3月12日現在
 厚生労働省健康局結核感染症課作成

厚生労働省ホームページより(<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou02/>)

鳥インフルエンザまとめ

- 原因はA型インフルエンザウイルスの感染
- A型インフルエンザウイルスは構造の違いによりH1~16×N1~9の144通りにタイプ分けされる
- 人もA型インフルエンザウイルスに感染するが、鳥のものとはHN型が異なるウイルスが原因となる
- H5とH7型のウイルスはニワトリ等の家禽では強い症状を示す強毒型のものもあるが、多くの野鳥、特にカモ類では強い症状を示す事は少ない。
- 鳥インフルエンザは有効な治療法が無く、高病原性の場合には殺処分や移動制限などにより感染の広がりを抑える事が重要
- 人への感染例は少数あるが、可能性は極めて低く、非常に特殊な場合に限られる
- 今後、高病原性鳥インフルエンザウイルスから人への感染力を獲得した新型ウイルスが出現する可能性が危惧されているが、現在そのようなウイルスは確認されていない
- 死んだ野鳥を見つけてもすぐに鳥インフルエンザを疑う必要は無いが、心配なら触らない
- 万が一野鳥やその糞便に接触した場合は手洗いうがいをしっかりする事でウイルスの取り込みを減らす事ができる



保全センターのツバメとメジロの里親をしているボランティアの塩澤さん。
今回は、昨年起きた大震災を受け、いざという時の備えについて、
専門家のお話を参考に考察してくれました。

<もし大地震が起こったら…>

今年1月、“今後4年以内に都内直下型大地震が起こる確率70%”と発表されました。(東京大学地震研究所・研究チームのまとめより)

長期飼養でツバメ、メジロを預かっている以上、どう守っていくか情報が欲しいと思っていた矢先、公益社団法人 日本愛玩動物協会 災害担当理事 平井潤子氏から、貴重なお話をいただくことが出来ました。平井氏に野生動物救護の会 会報誌『RUNNER』への掲載の可否を伺ったところ、「一人でも多くの方に知っていただきたいので、私からも是非、お願いします」と、快く承諾を得ることが出来ました。許可をいただいた内容を報告致します。

① 動物を受け入れる避難場所の例
〔市川市少年自然の家〕(千葉県市川市大町280-4)
飼い主と同じ部屋に泊まれます。

② 災害時に起こる様々な問題
〔水や餌の不足〕
※最低一週間分を用意する。常にストック。無くなりそうだから、明日買おうでは駄目。災害はいつ起こるか判らない。
※避難場所にそれを全部持ち出せるか。
※ワンタッチ式のテントがあると便利。
※自宅に残る場合、物資を届けてもらう為、避難場所に自宅登録をする。

野鳥に必要なミルワームのストックは、どれ位必要なのか、個人的に平井氏にお尋ねしたところ「興味深いです。被災地で野生動物を飼っている人を捜して、調査してみます」と、おっしゃって下さいました。

昨年の東日本大震災後、私の経験から申しますと、2週間ぐらいブドウムシ(ハニーワーム)が手に入らない時があり、購入に凄く困った事がありました。ブドウムシ命のツバメに、与えられない日が3~4日ありまして、体重18.5グラムあったのが、16.0グラム(13.5グラム減少)にと痩せてしまいました。二度と、こんな可哀相な事をしたくありません。

もし、都内直下型大地震が起こった場合、ブドウムシだけでなく、ミルワームも1ヶ月以上購入不可になるのではないかと、個人的に思っています。

まず、人が安全を確保出来れば、動物も安全ですね。

塩澤家 1ヶ月分のストック
(ツバメ2羽とメジロ1羽)

- 〔ブドウムシ〕1週間100匹 × 5週間分
- 〔ミルワーム〕1週間150匹入パック3個 × 5週間分
- メジロ: すり餌5週間分1袋、ミカンの代わりにメジロ用ゼリー、1日1個 × 31日分
- ツバメ: ドッグフード(ピタワン)多めに2分の1袋分
- 水500ミリリットル2日分と予想し500ミリリットルペットボトル16本

その他: 避難場所へ行く事も考え、『神奈川県野生動物救護ボランティア登録証』と『野生復帰不適証明書』をいつでも持参出来るよう、準備しておく方が良いと思われます。

大地震が起こらないよう、祈るしかありません？



ミツユビカモメ来たる！！



ミツユビカモメ (受付番号: 120022)。2月5日撮影。フライングケージにて。

保全センターで県内初記録

無事野生復帰を果たした

二〇一二年一月二十九日、相模原市でミツユビカモメが救護された(三二二五g)。その日の朝、北風が強くあおられて群れからはぐれてしまったのではないかと考えられている。非常に痩せて弱っていた為、さ缶(大用のエサ)をチューブで強制給餌した。また、小さいアジを皿に入れてやったところ、大量に食べ、日に日に体重は増え、元気になった。その後、野外のフライングケージに出し、プールに水を張り、リハビリに取り組んだ。二月二二日、無事に茅ヶ崎の海岸にて野生復帰を果たした(五〇〇g)。

保全センターにおけるミツユビカモメの救護例は、一九九二年一月七日に一例あるが、長野県からの保護例だった。そのため、今回が保全センターで神奈川県内初救護記録となる。

子タヌキ野生に帰る

二〇一一年春、保全センター内で生まれた一頭の子タヌキがいる。春に室内ケージ内で生まれた彼はすくすくと成長し、八月二十八日には親元を離れ、野外のフライングケージに移動した。そして、一月下旬からは野外とケージを行き来できるようになり、野外に帰るようになった。今年に入ってから野外のみで生活するようにさせ、エサも絶った。しばらく敷地内をうろついていた子タヌキだが、二月二十九日からは姿をみせなくなり、無事に野生に帰った模様。



保全センター敷地内を歩く子タヌキ

ヒナコウモリ冬眠中

春が来るのが待ち遠しい



ヒナコウモリ（受付番号：110647）。正面から見るとブタのようなかわいらしい顔をしている。

二〇一一年一二月から今年一月にかけて、ヒナコウモリが相次いで三頭救護された。三頭とも動かなくなっているところを発見された為、保全センターの職員は「少し暖かい日、冬眠から起きてエサを探している最中に寒くなつて動けなくなったのではないか」と話している。現在、体重が少なく左上腕骨を骨折している一頭に関しては保温箱で活動中だが、体重が良好な二頭については保全センターの冷蔵庫内（約ゼロ℃マイナス五度）で冬眠中だ。

しかし、冬眠中でもエサは必要だ。そのため、保全センターでは一週間から一〇日おきに冬眠から目覚めさせてエサをあげている。その日になると、職員が冷蔵庫から出し、ヒナコウモ

今冬は疥癬タヌキが少ない

気温が低いことが原因か？

今冬の疥癬タヌキの救護件数は、例年に比べやや少ないことが、保全センターの救護記録より明らかになった。

しまっているという可能性が考えられる。今後も更なるデータ収集と分析が望まれる。

各年度一二月から二月までの疥癬タヌキの救護件数は、二〇〇九年度が一九頭、二〇一〇年度が一四頭に対し、今年度は九頭とやや少ない。原因は明らかではないが、今冬は例年に比べ気温が低く、救護される前に死んで

りを暖かい場所におく。こうすることで体温が上がり、目を覚ますのだ。エサは犬用ミルクとミルワームで、その日一日だけでミルワーム一〇〇匹以上食べるといふ。なんとも大食漢だ。現在冬眠中の二頭は春になって暖かくなったら放野する予定だ。



ヒナコウモリ（受付番号：110657）の横姿。

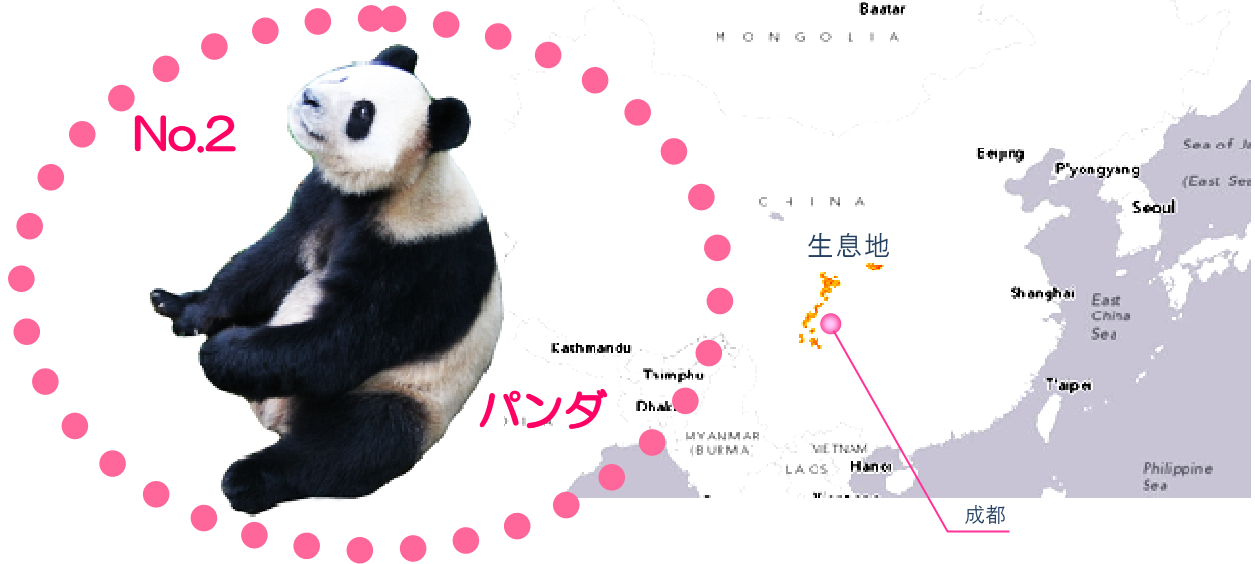
	12月	1月	2月	合計
2011年度	5頭	1頭	3頭	9頭
2010年度	6頭	2頭	6頭	14頭
2009年度	7頭	4頭	3頭	19頭

表：各年度の12月から2月までの疥癬タヌキ救護記録

ボランティアスタッフが国内外における野生生物保護の現場を紹介するコーナーです。
普段の活動は勿論、実習先の検討や、旅先の目的地の参考にできれば幸いです♪

インタビュー先：

中国成都大熊猫繁育研究基地



成都でパンダ飼育体験

旬のパンダの話題！といってもカンフーでも上野でもなく、本家本元四川省のパンダ保護施設のご報告。

成都是西中国最大の都市。週末のプラン作りに腕をならしている最中、ウェブで飼育体験プログラムを見つけた。パンダの生態について学びたい外国人向けに提供されているプログラムで、特に資格等は必要ない。私が参加したのは1日コースだが、長期コースもあり、参加者の都合に合わせてプログラムを組んでくれる。

パンダについて

IUCN レッドリストによると野生のパンダは1600頭未満とされており、EN (Endangered; 絶滅危惧IB類)に分類されている。生息地の減少は深刻で、個体群が分断されていることにより遺伝子の多様性の減少も危惧されている。高度約1,200-4,000mの、タケが多く生える森林に生息している。一口にタケと言ってもパンダが食べるのは60種類もあり、そのうち35種類が主食となる。コアラもユーカリに対してそうだったが、パンダ個体により種類の好き嫌いがあるというのが面白い。

余談だが、上野動物園ではパンダの餌を人間用にア

レンジした「パンダかゆセット」を注文できる。私はこれが大好きで、食べるたびになんとなく間延びした気分を味わっている。

日本には和歌山アドベンチャーワールド(8頭)、上野動物園(2頭)、神戸王子動物園(1頭)に合計11頭のパンダがいるようだ。

成都大熊猫繁育研究基地について

成都大熊猫繁育研究基地は1987年にパンダの保護と研究を目的に設立された施設。面積約200ha、108頭のパンダを保護している中国でも最大級の施設だ(2011年末時点)。ジャイアントパンダ以外にレッサーパンダなど絶滅危惧種の保護・研究も行っている。普段



子パンダ
(提供：中国成都大熊猫繁育研究基地)

は単独行動を行うパンダをなるべく自然の状態に飼育するために、とても広いスペースをとっている。歩き回るのは良い運動になり、飼育体験をしない観光客でも最低半日は見ておいた方が良いと思う。歩きやすい靴は必須だ。

繁殖・幼獣飼育では実績が多く、2008年までに124頭の子パンダがセンターで誕生しているそうだ。生まれたばかりのパンダは保育所(室内)のガラスケース越しに見られ、つい赤ちゃん言葉で語りかけそうになる。もう少し大きくなった子パンダは屋外でじゃれている姿を見ることができ、常に観光客が群がっているコーナーだ。寝ている姿も愛らしいが、起きている時は転がりまわって本当に見ていて飽きない。

パンダ飼育体験(一日コース)

内容はケージの掃除(糞や食べ残しを集める)、集めた糞の観測(糞の様子や重量測定により、個体の健康を把握)、餌やり(長い竹竿を利用し、パンダに月餅ミックスやリンゴを差し入れる)など。当施設では笹や果物以外に栄養価の高い食物を混ぜたミックスを月餅の形にして与えている。

さすが笹を多く食べているだけあってパンダの糞は臭くなく清涼感のある匂いがする。パンダの糞こそウンチペーパーに向いているのではないだろうか? ケージ掃除も快適だ。



竹竿を利用した餌やりの様子

餌やりの際、飼育下のパンダが運動不足にならない様に立たせて食べさせるのがポイントとのこと。「起来(チライ)!」と叫ぶのだが、最初は私の発音が良くなかったらしくパンダに通じなかった…。

オジサンパンダには仰向けに寝ころんだまま手を伸ばしてパンダ月餅を持っていかれてしまった。テレビ前のソファに寝ころんでビールに手を伸ばす雰囲気だろうか。普段の動きからは信じられないほど素早い動きだった。その時だけ眼光も鋭かった…。

指導して下さった飼育員の方は大好きなパンダの保護に携われるのはとても幸せだと語っていた。

短い時間だったが、貴重な体験のおかげでパンダがぐっと身近な存在になった。今後もパンダ保護活動を応援したいと思う。

参考ウェブサイト

1. 成都大熊猫繁育研究基地ウェブサイト
<http://www.panda.org.cn/>
2. IUCN レッドリスト
<http://www.iucnredlist.org/apps/redlist/details/712/0>
3. 上野動物園 Zoo Express「パンダかゆセット」
http://www.tokyo-zoo.net/ROOT/express/express_back?record=1137
4. 上野動物園ジャイアントパンダ情報サイト
<http://www.ueno-panda.jp/>

これであなたもバイオリンガル!?

(生態系に関するワンポイント英語レッスン)

今日のことば: **ecology** (生態学、環境)

「イ」は憎たらしい子が「イーだ」という時の様に口を横に伸ばし気味にすると英語っぽくなります。難しい場合は「エコロジー」でも多分通じるので大丈夫です^^ 私たちがよく使う「エコ」という言葉は ecology の形容詞「ecological」から来ています。Economy(経済)と間違えない様に気を付けて下さいね☆

こんな感じで発音してね

イカラジー



ボランティアスタッフが国内外における野生生物保護の現場を紹介するコーナーです。
 普段の活動は勿論、実習先の検討や、旅先の目的地の参考になれば幸いです♪



山中でたまに見かけるカモシカは神秘的で、なんとなく畏怖の念さえ感じていた。シシガミ様。そんなカモシカの調査に参加させてもらえるというので早速行ってみた。

調査概要

下北半島カモシカ調査は、下北半島カモシカ調査グループが毎年夏季と冬季に青森県むつ市脇野沢(旧下北郡脇野沢村)で行っているカモシカの調査。1977年以來、村内複数の地域において生息密度調査を継続して行っている。調査地は下北半島の先端で、青森からフェリーで陸奥湾を横断して行く。

調査の目的は北限のカモシカの個体数の変動とその要因を探ること、また絶滅につながる事態を防ぎ、カモシカとカモシカを取り巻く自然環境の保護を目指している。

参加希望者はまず夏季調査に参加し、地図の読み方やコンパスの使い方を学び土地勘を掴んだのち、冬季調査に臨む。静寂の冬山でカモシカと同じ空気を吸うのは別格の雰囲気だ。山好きには是非お勧めしたい。

実はウシ科

ニホンカモシカは日本固有種、偶蹄目ウシ科。シカとは違い、ウシ科のほかの種同様、角は枝分かれせず、生えかわりもないそうだ。分布は九州と四国の一部および京都以東の本州であり下北半島が北限。英語名は Japanese Serow。でも関係者以外に serow と言っても「なんのこっちゃ？」という顔をされるだけなので「A kind of antelope only found in Japan」と説明するのが常套手段。



カモシカ調査ボランティア集合写真(2010年)

冬調査の様子

調査は尾根を一本ずつ担当し、両側の谷を調べるようにうねうね登り、うねうね降りる流れ。大型のトランシーバで両隣の尾根のメンバーと連絡を取り合い、進んでいく。足跡を見つけた時は時刻、位置や進んでいる方向を記録し、新しい足跡の場合は追ってみる。

今年の冬調査、新鮮な足跡を追っていたらなんとご本人に会えた。15mほど離れた茂みの中にいたのだろうか。ほぼ同時にお互いに気づき、びっくりして見詰め合ったのち向こうが「あいよー」という感じでゆるくかけて行った。逃げなくてもいいのに。早すぎて写真を撮れなかったのが残念！

0℃前後の気温の中、動きを止めるとすぐに体が冷えるので、昼食時は焚火を囲む。火起こしはなかなか難しく、これができるカモシカ調査一人前、など言われながら一生懸命ヒバの枝や乾木を集めた。白銀の世界の中みんなで焼いて食べるマシュマロの味は格別で、これのためにまた来年も来ようと囁くお腹の虫。



カモシカの足跡。黒い点が二つ見えるのがつま先



青森駅 A-FACTORY 内で見つけた「わにもっこ」の木皿。表にはカモシカの足跡、裏にはカモシカ。

翌日、超幸運な午後！向かい合った尾根から双眼鏡をのぞいていたメンバーより「親子発見」の無線連絡があった。その連絡を手掛かりに、両隣のメンバーと道路脇の斜面で仲良く餌を食べていた親子をめめたく発見！肝っ玉母さんは私たちを見ても動じず、今度はちゃんと動画も撮れた。

宿泊施設に戻ると、色々な片付けやレポート作成が待っている。各メンバーの調査経路、足跡・糞・鳴き声、個体発見などをそれぞれ地図に記入し終わる頃には夜のミーティングの時間。個性的でアツいメンバーの意見が飛び交うミーティング（飲み会？）も楽しみの一つ。来年もまた参加したいと強く思った素敵な調査だった。

帰り、青森駅周辺の再開発で新しくできた A-FACTORY に立ち寄った。シードル工場である建物はレストランやお土産物販売も兼ねており、開放的な気持ちの良い店舗だ。ここで見つけたのが写真の小皿。無垢の木でできており、ひとめぼれ。タヌキやノウサギなどほかの動物バージョンもあった。調査参加記念に一枚いかが？

活動についてのお問い合わせはこちら
下北半島カモシカ調査グループ 天笠 敏文 様
e-mail: umblera@mpd.biglobe.ne.jp

参考文献

1. 下北半島カモシカ調査
<http://hassysroom.web.fc2.com/antelope/Japaneseantelope.htm>

インフォメーション



参加イベント

◆東京バードフェスティバル 2012

▽日時 4/21(土)・22(日) ▽場所 東京港野鳥公園

▽様々な NPO や企業が参加し、内容盛りだくさんのこのイベントに救護の会も出店します。

一緒に参加してくれるスタッフも募集中です！

講習会

◆野生動物救護ボランティア講習会

▽日時 6/2(土)・3(日) 9:00～16:30 ▽場所 自然環境保全センター

▽毎年恒例！今年も野生動物救護ボランティアさんを募集し、2 日間にわたって野生動物救護に関する知識を学んでいただきます。講習会の裏方スタッフも募集中！

総会

◆野生動物救護の会 通常総会 / 講演会

▽日時 6/23(土) 13:00～15:50 ▽場所 自然環境保全センター

▽前半は当会の通常総会。後半は元日本野鳥の会職員で、現在はフリーランスで活動されている松田道生さんを講師にお招きし、「カラスから学ぶ～東京都の捕獲対策の検証と野生動物とは何かを問う」と題して講演していただきます。カラスの生態を始め、様々な野生動物との関わりなどのお話は必聴です。

衝突調査

◆秦野市立図書館衝突調査

▽日時 毎月最終金曜日 → 今後の調査日は 4/27、5/25

▽場所 秦野市立図書館

▽野生動物救護の会「バードストライク研究会」では窓ガラスへの野鳥の衝突調査を一緒に行ってくれる方を随時募集しています。興味のある方は事務局までご連絡を！

引越す方は…

◆新年度を迎え、転勤や進学などで引越しをされる方も多くいらっしゃると思います。住所変更の予定がある方は、救護の会事務局までご一報ください！登録を変更させていただきます。

詳細は当会ホームページをご覧ください

巣立ったヒナを拾わないでネ！

春になると野鳥たちの繁殖のシーズンが始まります。巣立ちヒナは巣立ち後でもしばらくは親鳥からいろいろな事を学びながら一人前になります。一人ぼっちのヒナを見かけても迷子だと思わないでください。巣立ちばかりのヒナは上手に飛べません！



☆☆会員へのお誘い☆☆

当会は、ボランティアスタッフの協力と設営趣旨にご賛同いただきました皆様方の寄付によって運営されております。私たちの活動を支援くださる賛助会員も同時に募集しています。

★一般会員：どなたでもご参加いただけます(年会費 2,000 円)

★学生会員：学生の方(年会費 1,000 円)

★賛助会員：当会の活動にご賛同いただき寄付をしていただいた方

年会費：法人一口 5,000 円 個人一口 3,000 円 一口以上

【振込先】

ゆうちょ銀行振替口座 : 00270-0-47040

名義 : 特定非営利活動法人 野生動物救護の会

発行月: 2012 年 4 月 発行: 特定非営利活動法人 野生動物救護の会 電話: 0463-75-1830
〒259-1306 神奈川県秦野市戸川 1086 番地の 4 ホームページ: <http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/>
編集者 表紙絵: 黒谷祐介 今日の RUNNER: 小松美絵 活動の現場: 平沼亜矢子 鳥インフルエンザ: 福富潤
らんなー新聞: 小松美絵 ボランティア雑感: 塩澤直美 野生動物保護日記: 武田智子
インフォメーション: 神崎さつき ♪ Special thanks: 望月美見さん かわいいイラストありがとうございました ♪